



⑭〔日記控帳〕（部分）

天明4年（1784）

勢多郡龍藏寺村（現前橋市龍藏寺町）の村役人が残した記録の天明の浅間焼けに関する部分です。村から派遣していた人足が泥流に襲われたこと、村から問屋に卸した米が泥入りになってしまったこと、農作物が育たず年貢を減免してもらったことなどが細かく書かれています。特に10月中に前橋で20軒ほどの打ちこわしが発生し、幕府と藩の双方からの取り締まりがあったという記述からは、浅間焼け後の不穏な社会情勢を読み取ることができます。

前橋市龍藏寺町自治会文書 P8303 No.14

【史料⑭】 「日記控帳」 天明三年十月
〔読み下し文〕

（前略）

- 一 同年七月、浅間山大焼けにて、七日七夜しん動、雷轉砂降り、同八日泥水押し出し、我妻川筋家屋敷人馬数多流るなり、同日関根川原人足村方より差し出し候四人、松の木へ上り、老夜明かし助かり申し候
- 一 同日、朝負川岸へ米廿式拾式俵差し出し、問屋長屋積み置き罷り帰り候、泥入りに成り、程の外難波致し、右の米商人渡りに付き、商人損に相成り、老俵に付き六拾四文宛堀り賃として村方より差し出し相済み候
- 一 同年、浅間山砂降りに付き、諸耕作実法申さず候
- 一 田方御引き九石五斗御用捨引き、畑方の儀本代拾部一割を以て金老兩老分式朱、
- 一 麦・大豆延べ穀共老ケ年御用捨、社倉麦申年より寅迄七ケ年分下し置かれ候
- 一 同年十月中、百姓大勢集り、石屋・酒屋、町にて九間在にて拾老軒程打ちこわし候、段々御吟味に付き、大公儀様より同心衆御出でにて大勢召し取り
- 一 当御家にて段々召し取り申し候

（後略）